

～さいつ～

佐伊津小学校便り

令和4年6月28日

No. 35

文責

校長 甲斐 裕一

さわやかあいさつ いっしょけんめい つよい体

6月下旬となり、1学期もあと3週間あまりとなりました。本当に月日の経つのは早いです。この間、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策と熱中症予防対策との両立を図りながら、児童の健康管理にお取り組みいただき、心から感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症による休校や学年閉鎖等の話も耳にいたしますが、本校では今のところそのような措置をするに至っておりません。今後も保護者や地域の皆さんと連携しながら、一学期のまとめの時期を迎えたいと思います。引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

佐伊津小教育会議を実施しました

6月17日（金）、第2回学校運営協議会を開催しました。今回は、委員の皆様の授業参観と佐伊津小教育会議を行いました。

佐伊津小教育会議は、学校と家庭、地域が一緒になって学校の課題について話し合ったり、活動したりするシステムのことで、今年度で3年目の取組になります。

3つの部会（さわやか部会・いっしょけんめい部会・つよさ部会）に分かれて、6年生児童と委員の皆様が話し合いました。

「さわやか部会」では、「あいさつが上手な学校になるために」というテーマで話し合いました。

「いっしょけんめい部会」では、「家庭学習を充実させよう」というテーマで話し合いました。

「つよさ部会」では、「睡眠を充実させるために」「SNSを使用するマナー」というテーマで話し合いました。（写真は、「いっしょけんめい部会」の様子です）



どの部会でも、児童が提案したことに対して、アドバイスをいただく等してご指導をいただきました。

今後、再度取組について検討し、実践につなげていきます。このことを通して、児童に「主体性・協働性・創造性」を育てていきたいと思ひます。

ご出席いただいた委員の皆様に、心からお礼申し上げます。

<さわやか部会>に参加した児童の感想

教育会議に参加しての感想は、「地域みなさんに感謝」ということです。私たちが参加できたこともだし、地域みなさんが話し合ってくれたことも「感謝感激だなあ」と思ひました。初めてとても緊張してうまく言えなかったのが、12月にはあまり緊張しないで挑みたいです。

ポスターのことに關して、自分では思いつかなかったことを大人の人たちは考えておられたので、参加してよかったなあと思ひました。委員みなさんのアドバイスや意見を聞くと「なるほど」と思ったり「その手もあったか」という気持ちになったりして、自分を振り返ることができました。みなさんからの意見に、あいさつは朝だけじゃなく昼もやっはどうかという意見が出ました。この貴重な体験を通して、いろいろなことを学びました。みなさんが教えてくださったことは役に立つと思ひるので、これからの学校生活に生かしていきたいです。

授業参観ありがとうございました

6月24日（金）、授業参観、「親の学びプログラム」研修会、学級懇談会を実施しました。今回は、「命の大切さを育む」ための授業を参観していただきました。



「命は大切」とか「命は一つしかないかけがえのないもの」とか、だれもが知っているし分かっていることと思われます。

しかしながら、心の底から命の大切さを感じたことは、あまりないのではないかと思います。今回は、命の大切さが児童の心に深い自覚となるよう、各担任が創意工夫して取り組みました。(左写真は、3年生の学習の様子)

命の大切さは、そのタイミングを捉えて、繰り返し何度でも指導することで、児童の心に浸透していくものと考えます。ご家庭におかれましても、繰り返し何度でもご指導いただければ幸いです。

「親の学びプログラム」研修会を実施しました

授業参観後、図書室で「親の学びプログラム」研修会を実施しました。多くの保護者の皆様にご参加いただきました。

元中学校長で「親の学びプログラム」トレーナーの山口 芙美和 (やまぐち ふみかず) 先生を講師にお迎えし、「デジタル機器との適切な付き合い方」というテーマでご指導いただきました。(右の写真)



スマホやタブレットは、私たちの生活に欠くことのできない便利なアイテムです。しかし、うまく付き合うことができないと、トラブルが発生することも考えられます。(実際、天草内でもトラブルが発生しているという報告があります)

そこで、どのようにうまく付き合うかについて、先生からヒントをいただくことができました。併せて、子育てに対する親としての心構えもいただくことができました。そのことが先生からいただいた資料の中にもありましたので、つぎのとおり紹介いたします。今後の子育てにお役に立てば幸いです。ご指導いただいた山口先生、ご参加いただいた保護者の皆様にお礼申し上げます。

子育てに対する考えは人それぞれだと思います。

子育てのこだわりも、人それぞれです。

みんな違うからこそ、この多様な社会は作られている、と思います。だから、子育てに関して「〇〇ちゃんも持つとらす・・・」という親がキュンとなるセリフに動揺してはいけないのです。

この多様な価値観が存在する現代だからこそ、「だけん？ うちはこうだ！」と我が家のルールを大事にしましょう。

何かあったとき、人のせいにはできないのです。親が責任を持つべきです。

絶対後悔しないために。我が子の命を守るために。

スマホの登場で、試されているのは子どもではなくて大人なのかも知れません。